

更なる需要が見込まれる 「コンクリート診断士」



取得した資格：コンクリート診断士
資格取得年度：令和5年度

ちば
千葉

しのぶ
忍*

受験の動機は、間違いから

私の受験の動機は、間違いから始まりました。当時、私は「コンクリート診断士」という資格の存在を知りませんでした。一方で、「コンクリート技士」を取得しようと思い、3千円程度の参考書を購入し、中身を読んでみると、なぜか既に出来上がっているコンクリートのことばかり。ここで初めて、間違っ

て「コンクリート診断士」の参考書を購入したことに気づきました。

その年は、改めて「コンクリート技士」の参考書を購入し、無事に合格できました。

せっかく、3千円で「コンクリート診断士」の参考書を買ったので、元をとらなければという思いで、翌年に「コンクリート診断士」を受験することにしました。

1回目の受験→不合格（少しふてくされる）

コンクリート診断士の受験のためには、まず、コンクリート診断士講習eラーニングの受講が必要になります。この受講には2万2千円（テキスト代含む）の費用がかかり、有効期限は2年です。この他に受験料が必要になります。受講の申込み期限が2月上旬までなので、受験を考えている方は注意が必要です。

試験は択一問題と記述問題になり、例年7月に実施されています。合格基準は公表されていませんが、択一問題もしっかり点数を取りながら、記述問

題にもウエイトを置きたいところです。

勉強を進める中で、初めて聞く単語や考え方などもあり苦労しました。テキストを読むだけでは眠くなるので、過去問題集を購入し、問題と解答をみて、どういう視点で問われるかを感覚として把握してから、テキストで詳細を確認するという手法で少しずつ覚えていきました。

記述問題については、最初は「何が問われているのか」すら理解できませんでした。この問題は、錆？強度不足？品質？アルカリシリカ反応？などの要素が考えられました。これは技術士の試験よりも戸惑いました。技術士の試験であれば何が課題かくらいはある程度わかるのですが、コンクリート診断士では、さっぱり理解できませんでした。また、同じ構造物内でも健全な部分と不健全な部分があり、この理由を述べよ等もあり、何から手を付ければいいのか全くわからない状態でした。

受験に向けて学習を続けることで、少しずつ理解できるようになり、択一問題も記述問題に対してもある程度の力がついていきました。

そして、ある程度の自信をもって受験しましたが、択一問題は合格ラインに到達したと思われるものの、記述問題に問題がありました。

問いの事象で何が劣化原因になっているのかを導き出せなかったのです。試験では見当違いの力学的な対応策を理路整然と記述し、不合格となりました。

合否発表後も数ヶ月間、「何を書けば良かったの

*前国土交通省 東北地方整備局 酒田河川国道事務所 工務第一課長

か」という思いと、「問題がわかりにくいことが悪いのでは」というふてくされた思いもありました。もう受験するのは辞めようと思いましたが、ここでも折角支払ったeラーニングの受講料がもったいないという思いが強く、次年度までの有効期限までに合格しなければならないと思ったのです。

2回目の受験で合格→人間的にも成長

何とか気持ちを切り替えて、2回目の受験に向けた勉強をスタートさせました。今回で絶対に合格するという気持ちで勉強しました。前年度よりも知識や推察力を向上させるように勉強しました。

改めて前年度の記述問題を様々な情報を入手しながら解いてみたところ、やっと自分で納得のいく解答に到達できました。

この時、いかに昨年の自分が無知であり、レベルが足りなかったかを痛感しました。これでは不合格であったのは当然であると思いました。

自然にさらされる構造物は、複雑な要因によって劣化していきます。そのため、劣化の要因を簡単に把握することは難しく、要因を特定するためには複数の視点での仮説と立証が求められます。同様の劣化現象であっても、劣化要因が異なれば対応策も変わります。間違った判断を下し、対応を行えば、対応が逆に悪い影響を与えてしまうこともあります。

コンクリート診断士は、コンクリートの医者と呼ばれることがあります。医者であれば患者に対して適切な対応を行い、病気や怪我を治してあげる必要があります。よく似た症状であったので間違えましては済まないことになります。

私は、1回目の受験で不合格となって良かったと思いました。1回目の受験で偶然にも合格していたなら「コンクリート診断士」として下す判断の重要性やその後の構造物が持つ社会的意義の重要性をしっかりと認識できなかったと思います。医者として誤った判断をするわけにはいかないのです。

2回目の試験も難しく、択一問題も記述問題も大変でしたが、無事に合格することができました。

この試験を通して、人間的にも成長できたと思います。

勉強できる、成長できることへの感謝

1回目の受験を終えた後に、もう受験するのは諦めようと思ったのですが、今では、勉強できること、まだまだ成長する余地があることに感謝しています。

そもそも、コンクリート診断士に関係のない職務をしているのであれば、勉強して受験しようという気持ちにもならないわけですので、自分の職務がそれなりに重要で高度なことをさせてもらっているおかげでもあります。

また、勉強できることにも感謝しています。毎日がギリギリの生活では勉強どころではありません。さらに、職務や社会から、自分に課せられる期待があるからこそ、それに応えられるように成長しようと思うところもあります。

欲を良い方向に活用する

合格すれば嬉しいので、もっと他の資格を取得してみたいと思う欲が芽生えます。この欲を良い方向に活用し、更なる資格取得に臨んでいます。

しかしながら、不合格のときは何とも言えない気持ちになります。それでも、あの合格したときの嬉しさを味わうという欲のために、何とか勉強を続けている状況でした。

読んでくださった方に

私自身、頭が良いわけでも、記憶力が優れているわけでも、真面目な性格でもありません。おそらくこれを読んだ方は、何らかの資格取得に興味のある方だと思います。私のような者でも資格を取得できたのですから、読んでくださった方なら、絶対に合格できると思います。

いつか、私と同じ会場で受験しているなんてことがあるかもしれないですね。最後までお読みいただきありがとうございます。

【著者紹介】千葉 忍（ちばしのぶ）

昭和51年生まれ。平成7年国土交通省東北地方整備局に入省。国土交通省本省、沖縄総合事務局、石巻市役所への出向を経て現職。技術士（建設部門（河川）、総合技術監理部門）、コンクリート診断士、コンクリート技士、一級土木施工管理技士